宮崎大学学術情報リポジトリ
University of Miyazaki Academic Repository

「家庭科における被服」の現状に関する調査研究

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 宮崎大学教育文化学部
	公開日: 2008-03-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 岡村, 好美, 平田, 雅代, Hirata, Masayo
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/1320

宮崎大学教育文化学部紀要　芸術・保健体育・家政・技術学　第12号（2005）７－14頁

「家庭科における被服」の現状に関する調査研究

岡村　好美、平田　雅代*

The Current Condition of Clothing Studies

Yoshimi OKAMURA and Masayo HIRATA*

This study investigated learning structure and content along with the wider social awareness of clothing studies. Investigators concluded that "materials" should be included within the junior high school curriculum; that commercially available materials may be employed in a wide variety of learning situations; and that social awareness may be expected to increase through the widow of materials.

Future clothing science curriculum should emphasize finding answers to practical questions.

１．緒言

今日の家庭科は、家庭生活を円滑に行うための教育を目的としている。しかし戦前の家庭科教育は、家事をこなせるようにするための教育と考えられており、内容は食べ物や着るものを「作る技術の習得」を目指していた。また、家父長制度が定着していた状況下では、家庭科は女子を対象とした教育と見なされていた。戦後我が国は高度経済成長の波に乗って産業は著しい発達を遂げ、特に技術革新は目覚ましく、生活の場に様々な機器が浸透した。家庭生活への機器の浸透はそれまでの生活様式を一変し、家事労働を軽減したばかりでなく、家庭での生活構造を変化させた。このような社会状況の変化は教育の場にも影響を及ぼし、教育課程の柱となる文部科学省告示学習指導要領の改訂によって家庭科は男女共修科目となった。しかし家庭科についてのイメージは、女性が家事をするための知識や技術を習得するための科目という思いが今日でも根強い。前述のように「家庭科」の趣旨は、家庭構成員の健康的な生活を支え、円滑な社会生活を営んで行けるようにすることであり、このことは食や衣は単に作るだけでなく、知識も求められていることを示している。このように家庭科には、生活の基本となる家庭生活を円滑に運営していくための知識や技術の習得が求められているはずであるが、学習指導要領の改訂によって授業時数が削減されるなど、現状は厳しい状況下にある。

我々は人間生活を維持していく上で不可欠な「被服」の現状を明らかにすることを目的として調査を行い、先報では学習者の現状を報告した。本報では、学習者を取り巻く状況の面から、

*宮崎大学大学院

被服の学習状態および社会的関心領域について報告する。

2．調査および方法

2-1　被服分野に関する学習状況の調査

2-1-1　教科書における被服分野の注目度調査

採用頻度が高いと考えられる1996年度以降に発行された中学校および高等学校の教科書（中学教科書：2種類、高校教科書：4種類）を用いて家庭科の教科書の全ページ数および被服分野が占めるページ数を調べ、家庭科および被服分野への注目度とした。また、被服分野を「材料」、「整理」、「着装」、「構成」の4領域に分類し、それぞれの占有ページ割合を調べて各領域への注目度とした。また、各領域で扱われている内容の項目名から、学習内容を調べた。

2-1-2 実践報告から見た注目領域調査

『技術教室』（2001年1月～2002年12月）、『月刊家庭科研究』（2000年1月～2003年11月）、『続　家庭科の実験・観察・実習指導集』、『技術・家庭題材集　家庭分野』に記載された被服分野の実践報告例を前記の4領域に分類し、報告数と報告内容を調べて被服分野の学習実態とした。

2-1-3 市販教材の領域傾向調査

教育現場で活用される教材カタログ、『家庭科教材カタログ』（トップマン）、『家庭分野カタログ』（ISUPET）から被服分野に該当する教材を抽出した。教材は前記の4領域に分類して各領域の割合を求め、教材傾向とした。

2-2　被服分野における社会的関心領域の調査

切り抜き速報『生活と科学』（2000年1月～2003年12月）における被服分野の新聞掲載記事を4領域に分類して各割合を求め、高割合の領域を社会的関心領域とした。

3．結果と考察

3-1　被服分野に関する学習状況調査

3-1-1　教科書における被服分野の注目度

中学校・高等学校の家庭科の教科書について、全ページ数および被服分野が占めるページ数を図1、図2に示す。学習指導要領の改訂によって中学校の教科書はいずれも総ページ数は半減したが、被服分野の占有ページ数は改訂による影響はほとんどなく、ページ数の減少も少ない状況である。高等学校の教科書は学習指導要領の改訂によって出版社ごとに2種類以上作成されるようになり、普通科の高等学校で採用されている"家庭基礎"の教科書を対象とすると、各出版社とも改訂後は総ページ数を削減していることは明らかである。しかし、削減は中学校の場合ほど大きくなく、最大で20％程度である。“家庭基礎”の被服分野の占有ページ数は、指導要領の改訂によって半減し、被服分野は中学校では注目度は高いが、高校では低い状況にあることが明らかである。

被服分野各領域ごとの占有ページ割合について、中学校の教科書の場合を図3に、高等学校の教科の場合を図4に示す。ページ数の減少が少なかった中学校の被服分野では「構成」領域の占有ページ数の変動は極めて小さく、「整理」と「着装」領域では増加傾向を示し、「材料」領域では占有ページ数は大幅に減少した。このことは「材料」に当てられていたページが「整理」と「着装」領域へと振り替えられたことを示している。また高等学校の教科書の“家庭基

礎”では、「構成」領域の占有ページの大半が削減され、「整理」領域の増加が感じられる。被服分野占有ページの半減が「構成」領域の削減によってもたらされた現象であると考えると、割合の上で増加が感じられる「整理」領域は変化がなく、占有ページ割合の変化が小さい「材料」・「着装」領域は事実上の削減であると考えられる。以上のことから、教科書の被服分野は中学では「整理」と「構成」領域を注目し、高校では特に「整理」領域を注目していると考えられる。

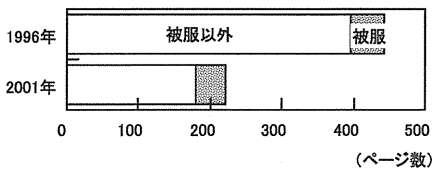

図1-1 開隆堂出版発行の教科書

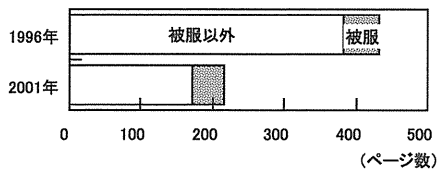

図1-2 東京書籍発行の教科書

図１　中学校の教科書で被服分野が占めるページ数の変化
（教科書年は検定年）

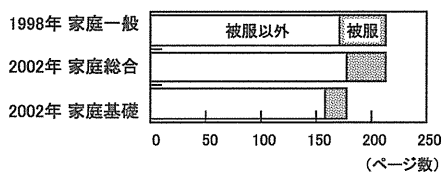

図2-1 開隆堂出版発行の教科書

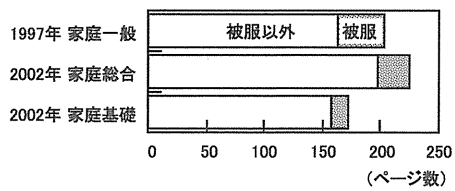

図2-2 大修館書店発行の教科書

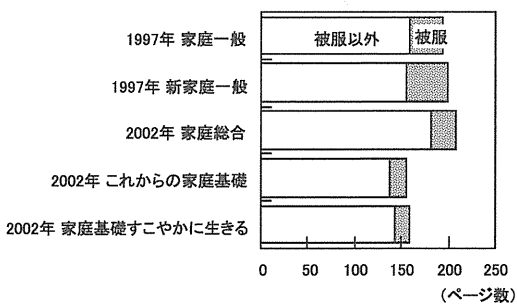

図2-3 一橋出版発行の教科書

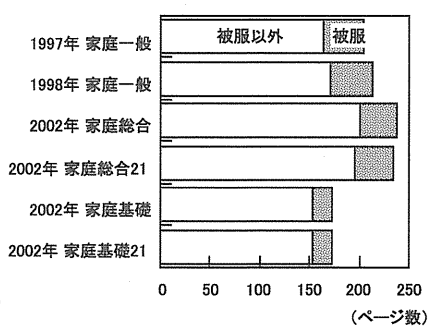

図2-4 実教出版発行の教科書

図２　高等学校の教科書で被服が占めるページ数の変化
（教科書年は検定年）

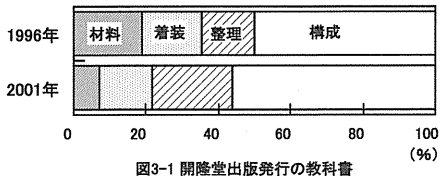

図3-1 開隆堂出版発行の教科書

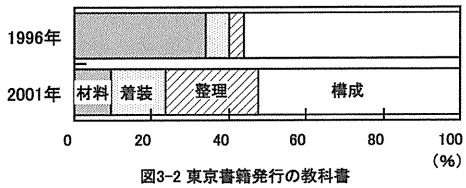

図3-2 東京書籍発行の教科書

図３　中学校の教科書における被服分野各領域の割合変化

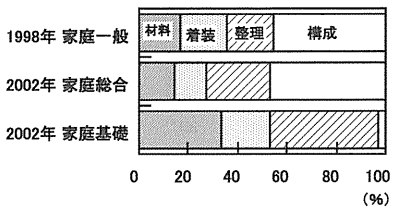

図4-1 開隆堂出版発行の教科書

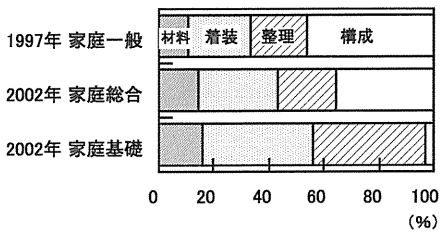

図4-2 大修館書店発行の教科書

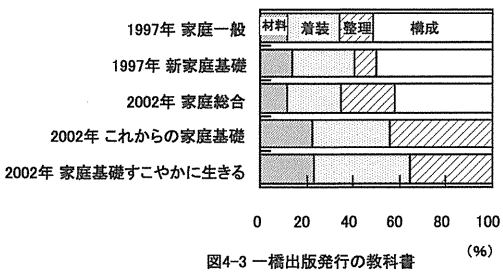

図4-3 一橋出版発行の教科書

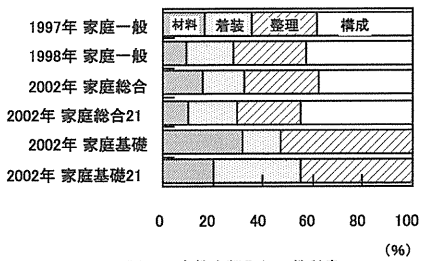

図4-4 実教出版発行の教科書

図４　高等学校の教科書における被服分野各領域の経年変化

中学校と高等学校の家庭科における被服の学習項目について、中学校の場合を表1に、高等学校の場合を表2に示す。表2の高等学校の教科書は、比較のために中学校家庭科の教科書として採用頻度が高い発行所の教科書について示した。中学校の被服では「材料」の学習項目が減少しており、これは前述の「材料」領域の占有ページ数が減少したことによるものであろう。「構成」領域でも学習項目の減少が認められるが、この領域では占有ページ数の削減はほとんどなされていないことより、指導要領の改訂によって「構成」領域の学習内容には偏りが生じたことが推察できる。高等学校の"家庭基礎"の被服の学習項目は「整理」、「着装」、「材料」領域に変化は認められず、「構成」領域は激減した。これらの領域における項目数の変化は各領域の占有ページ割合の変化と合致する。また「着装」や「整理」の学習は、環境や個人を重視する傾向が強くなった社会情勢に合わせた内容への移行が感じられる。

表１　中学校の教科書における被服分野各領域の学習項目

	開隆堂出版		東京書籍	
	1996年	2001年	1996年	2001年
材料	繊維の種類 錦糸の製造過程 布地の種類 布地の製造過程 被服の機能 繊維の性質や特徴 染色実習	繊維の種類 布地の種類 被服の機能 繊維の性質や特徴	繊維の種類 布地の種類 被服の機能 繊維の性質や特徴 染色実習	繊維の種類 布地の種類 被服の機能 繊維の性質や特徴
着装	被服形態と気候・風土との関係 リフォーム・リサイクル 着用とＴＰＯ コーディネート	被服形態と気候・風土との関係 リフォーム・リサイクル 着用とＴＰＯ コーディネート	被服形態と気候・風土との関係 リフォーム・リサイクル 着用とＴＰＯ コーディネート	被服形態と気候・風土との関係 リフォーム・リサイクル 着用とＴＰＯ コーディネート
整理	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み 表示 合成洗剤と石鹸 収納	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み 表示 合成洗剤と石鹸 収納	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み 表示 合成洗剤と石鹸 収納	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み 表示 合成洗剤と石鹸 収納
構成	洋服・和服の構造 編物実習 布端のしまつ 採寸箇所 ミシンの構造と使い方 衣服製作実習 刺繍実習	洋服・和服の構造 布端のしまつ 採寸箇所 ミシンの構造と使い方 衣服製作実習	洋服・和服の構造 編物実習 布端のしまつ 採寸箇所 ミシンの構造と使い方 衣服製作実習 刺繍実習	洋服・和服の構造 布端のしまつ 採寸箇所 衣服製作実習

表２　高等学校の教科書における被服分野各領域の学習項目

	開隆堂出版		
	1998年　家庭一般	2002年　家庭総合	2002年　家庭基礎
材料	繊維の種類と特徴 布地の種類 被服の機能 繊維製品の性能	繊維の種類と特徴 布地の種類 被服の機能 繊維製品の性能	繊維の種類と特徴 布地の種類 被服の機能 繊維製品の性能
着装	被服形態と気候・風土との関係 リサイクル 着用とＴＰＯ コーディネート 購入 被服による障害や事故	被服形態と気候・風土との関係 リサイクル・リフォーム 着用とＴＰＯ デザイン・色 コーディネート 購入 被服による障害や事故	被服形態と気候・風土との関係 リサイクル・リフォーム 着用とＴＰＯ コーディネート 購入 被服による障害や事故
整理	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み 洗濯と環境 表示 洗剤の働き 漂白・しみぬき アイロンかけ 保管	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み ドライクリーニングと環境 表示 洗剤の働き 漂白 保管	家庭洗濯とドライクリーニング 汚れが落ちる仕組み ドライクリーニングと環境 表示 洗剤の働き 漂白 保管
構成	洋服・和服の構造 布端のしまつ 採寸・型紙 ミシンの使い方 被服製作実習	洋服・和服の構造 布端のしまつ 採寸・型紙 被服製作実習	被服製作実習

以上のように教科書上では、中学校・高等学校共に被服の学習で重要視しているのは「整理」領域であり、これに加えて中学では「構成」を、高校では「材料」と「着装」を必要としている。「構成」領域については、基礎を中学で行い、着衣を市販衣料に委ねればそれ以上は必要ないという態勢であろうか。全高校の半数以上を占める普通科の高校で「構成」領域をほとんど学習しないとすると、この領域の学習はすべて中学の学習に頼ることになるが、中学では織物を対象とした繕いなどの能力しか習得できないことが推察できる（表1)。これは、近年ミシンを所有しない家庭が増加したことの裏付けとも考えられる。日常の衣生活において「着装」は消費に関した領域であり、「整理」は維持・管理の領域であると考えると、「材料」は両者を論理的に理解するための基本領域であると思われる。これは、「材料」領域の学習が他領域の学習を発展させるために不可欠な学習領域であることを示している。したがって中学での「材料」領域の削減は、衣生活を運営するに当たっての論理的体系を崩したことと同意であると思われる。学習方法として先ず身近な現象を捉える姿勢を養い、後に論理的に理解するという学習形態は中学以上の学習方法としては適していないと考えられる。これは先報の「整理」領域の理解度が低い結果であったことには、現象に論理的な解釈が伴っていないことが一因となっていることからも明白である。これらのことから、被服分野の学習で重要なことは、他領域の論理的学習においても基礎となる領域の知識を定着させることであると考えられる。このことは中学校における「材料」領域の学習の重要性を示しており、"疑問・解決学習"を可能とするためには、基礎知識が不可欠であることを示している。

3-1-2　実践報告から見た被服の注目領域

被服分野4領域の実践報告割合を図5に示す。「構成」に関する実践が40％程度を占め、次いで「材料」に関する実践が30％程度、「着装」・「整理」に関する実践はそれぞれ15％程度であった。これらの数値は小学校における実践数も含んでいるが80％以上が中学・高等学校の実践であることから、教育の現場は教科書とは異なる領域を注目していることがうかがえる。被服各領域における学校別の実践報告割合を図6に示す。中学校では特に「材料」と「整理」領域の実践報告が、高等学校では「着装」と「構成」領域の実践報告が多く、被服分野の実践報告領域は、教科書で注目している領域とは大きく異なる。このことは、現場の教員と教科書での学習内容が異なることを示すと考えられる。これは一方では、教書の不足を補うための実践とも考えられるが、指導要領の改訂によって授業時数が減少した中での実践であることを考慮すると、後者である確率が高いことが推察される。

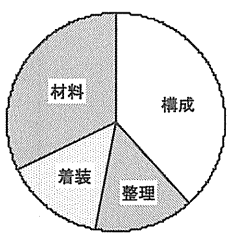

図５　被服分野各領域の実践報告割合

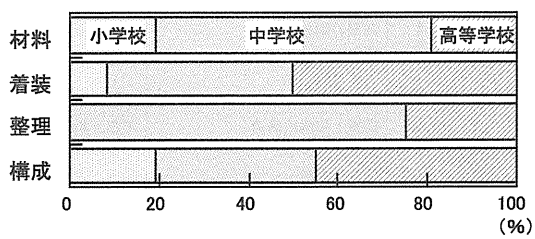

図６　実践報告の学校別割合

3-1-3　市販教材の傾向

市販されている被服関連教材を被服の4領域に分類し、割合を図7に示す。「構成」領域を対象としたものが70%以上を占め、教科書上重要視されているはずの「整理」や「着装」領域に関する教材はほとんど市販されていないのが現状である。市販教材が少ない理由は現場での需要がないことによると考えられるが、販売可能な教材化が行われにくいということも考えられる。また、市販教材としては最も多かった「構成」の教材は、大半が『作る』教材であった。「構成」領域の学習では技術だけでなく、それに伴う知識も求められるはずであるが、市販されている教材には作業手順の指示はあるが、それ以外の指示はないのが一般的である。「構成」領域教材の内容物は布や糸であり、「材料」で成り立っていることを考えると、「構成」領域とした市販教材は教授者の工夫次第で「材料」領域の教材としても使用できると思われる。

以上のように市販の教材は関連領域が偏っているが、教授者の使い方によって広範囲の領域での使用が可能になると考えられ、このためには教授者の工夫が不可欠である。

3-2　被服分野における社会的関心領域

新聞に記載された被服分野各領域の割合を図8に示す。年度によって領域の割合は大きく変化する中で、「材料」領域に該当する記事の割合は経年変化が最も少なく、このことから「材料」領域は常にある程度の関心を集める領域であると思われる。また、近頃被服分野で社会的に関心を集めているのは「着装」の領域であることが示された。「着装」領域の割合が増えた2002年と2003年の記事について、記事で取り上げている被服を分類すると、服飾品に関する記事が30%程度、残り70%程度の衣服に関する記事のうち約30%は素材の性能との関わりから記述がなされていた。このことは「材料」領域に関する知識は「着装」においても必要であることを示しており、「材料」領域の重要性を物語っている。

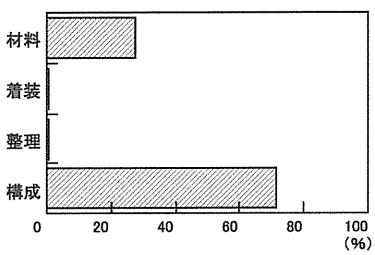

図７　被服分野における教材割合

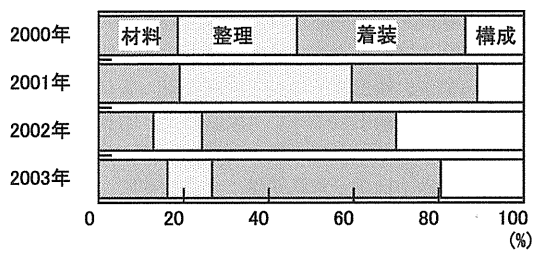

図８　被服分野における社会的関心領域の経年変化

4．結論

家庭科は生活の基本である家庭生活を円滑に維持・運営していくことを目的とした教科でありながら、授業時数の削減など、近年は厳しい状況下にある。本研究は人間生活を維持していく上で不可欠な「被服」分野の現状を明らかにすることを目的としており、本報では被服の学習状況および社会的関心領域について調査し、以下の結果を得た。

1）報告されている被服の実践領域は、中学校・高等学校の教科書で重要視している領域とは異なる。

2）市販教材の該当領域は偏っているが、工夫次第で広範囲の領域の教材として使用できる。

3）被服分野において社会的に必要と考えられているのは「材料」領域である。

以上のように本調査から「材料」は高等学校で学習することが明らかになり、記憶の新しさが、学生の「材料」についての学習記憶が強いという先報の結果をもたらしたと考えられる。しかし、「材料」領域で学んだ知識を日常生活で活用できなくては、実際に理解したとは言い難い。衣生活を円滑に運営するためには「材料」を十分に理解して現象を解明し、発展させる能力が求められる。そして、この能力を養うことが被服学習の目的である。本報告は教授者の調査を伴っていない結果であるが、学習者を取り巻く状況という点からは十分有益な情報であると思われる。今後の被服学習では、“疑問に解決が伴う学習”形態の定着が望まれる。

参考図書

・鈴木寿雄ほか：技術・家庭　上　下、開隆堂、(1996)
・仲間美砂子ほか：技術・家庭　家庭分野、開隆堂、(2001)
・石田晴久ほか：新しい技術・家庭　上　下、東京書籍、(1996)
・石田晴久ほか：新しい技術・家庭　家庭分野、東京書籍、(2001)
・一番ヶ瀬康子　村田泰彦ほか：家庭一般　生活をかえる、一橋出版、(1997)
・樋口恵子ほか：新家庭一般　あしたを生きる・創造する、一橋出版、(1997)
・竹中恵美子　春日キスヨほか：これからの家庭基礎、一橋出版、(2002)
・一番ヶ瀬康子ほか：家庭基礎　すこやかに生きる、一橋出版、(2002)
・一番ヶ瀬康子ほか：家庭総合　ともに生きる、一橋出版、(2002)
・伊藤セツほか：家庭一般　新しい家庭の創造をもとめて、実教出版、(1997)
・春日寛ほか：家庭一般21、実教出版、(1998)
・宮本みち子ほか：家庭基礎　自分らしい生き方とパートナーシップ、実教出版、(2002)
・宮本みち子ほか：家庭総合　自分らしい生き方とパートナーシップ、実教出版、(2002)
・春日寛ほか：家庭基礎21、実教出版、(2002)
・春日寛ほか：家庭総合21、実教出版、(2002)
・金田利子ほか：家庭一般　明日の生活を築く、開隆堂、(1998)
・金田利子、鶴田敦子ほか：家庭基礎　明日の生活を築く、開隆堂、(2002)
・金田利子、鶴田敦子ほか：家庭総合　明日の生活を築く、開隆堂、(2002)
・藤枝惠子ほか：家庭一般、大修館書店、(1997)
・中間美砂子ほか：家庭基礎、大修館書店、(2002)
・中間美砂子ほか：家庭総合、大修館書店、(2002)
・技術教室、2001.1～2002.12
・月刊　家庭科研究、2000.1～2003.11
・続　家庭科の実験・観察・実習指導集、開隆堂、2000.10.6
・技術・家庭題材集　家庭分野、開隆堂、2000.10.13
・家庭科教材カタログ、トップマン
・2003年度　家庭科カタログ、トップマン
・2003年度　家庭分野カタログ、ISUPET
・生活と科学、2002.1～2003.12